

彦根「シニア学生」と子どもら交流

「昔の遊び面白い」

シニアの学びの場「県レイカディア大学」の学生と子どもたちとの世代間交流会が九日、彦根市芹橋にある彦根藩善利組足軽屋敷の辻番所であった。

(曾田晋太郎)

同大は県社会福祉協した授業の現地研修の機会が運営。交流会一環で催した。県内の小学生以下の子ども十人が参加。学生の指導で、こま回しや福笑い、おはじきをした



り、昭和十〜四十年代の彦根市内の写真を見ながら街並みの移り変わりの説明を受けた。

会場には、米原市の伊吹山文化資料館から借り受けた木製弁当箱や尋常小学校の教科書などの資料計二十五点も展示。学生たちは昔を懐かしみながら子どもたちに使い方を説明していた。

親子で草津市から参加した沢辺ひなさん(二〇)は「今はない昔の道具がたくさん見られて面白かった」と話していた。

昭和初期ころまで使われていた道具を説明する学生たち。彦根市芹橋の辻番所で